

ふれあい たまこ

「ふれあいたまこ」は多摩湖町福祉協力委員会の広報紙です。
年2回(9月・3月)発行し、多摩湖町の全戸に配布しています。

第63号

令和7年(2025)3月

発行：多摩湖町福祉協力委員会

連絡：東村山市社会福祉協議会
東村山市野口町 1-25-15
(Tel.394-6333)

人生100年時代に向かって — 地域福祉に向けて活動したい —

8年前に地域の方から「社会福祉協力員の活動に参加してみませんか」と声を掛けられ、地域の方々との交流を深められたらと思い参加することにしました。

31人の福祉協力員が行なっている「年間行事」の中から自分が参加出来そうな行事をやってみることにしました。中でもふれあいセンターと共催したフランクフルト、唐揚げ、生ビールの販売は盛況で全て完売したことに喜びを感じました。

清水家に嫁いで45年になりますが、あまり人との付き合いもなく近所でおしゃべりすることはありませんでした。昨年12月に廻田町で途中歩けなくなって道路脇で座っていると、リハビリ中の近くに住んでいる女性から「家に来てゆっくり休んだら」と声をかけられました。何度も断りましたが、休ませてもらい、心置きなく歓待して戴きました。この嬉しさや優しさは忘れることなく、いつか誰かに恩返しをしてあげよう と心に決めました。



また、9月の敬老の日を記念して手配りをした時に、一人暮らしの高齢者、介護の身で外出できない方が待っているかのように、話続け、^{うなず}頷いて聞いてあげる笑顔は忘れることはありません。活動の中で一人暮らしの高齢者、障がいのある方、介護を要する方々の困りごと、悩みごとに耳を傾け、相談相手の受け皿となる ことの大切さを知りました。

人生100年時代に向かって、生活に課題を抱える方が充実した暮らしをするための取り組みである「地域福祉」という大きな目標を実現するためには ◎地域の見守り、助け合いを進めること ◎住み慣れた土地で安心して自分らしく暮らせる地域をめざすこと ◎生きがいや介護予防などの地域福祉の維持・向上を目指すこと を意識して活動することが必要だと思います。

これからは、将来に向かって元気なうちに出来るだけ地域に貢献し、何れはお世話になる前に恩返しのために2歩前進 1歩後退で進んで行こうと思います。

(清水 好江)

桜まつり：「花はなくとも焼き団子」 昼過ぎに1200本完売

福祉協力員会は昨年の桜まつりで例年通り焼き団子と駄菓子販売しました。開花予想に反し、桜はほとんど咲いていませんでしたが、「花はなくとも焼き団子」。販売開始より店前に行列、昼過ぎに1200本を完売しました。福祉協力員、中学生ボランティアなど力を合わせ行いました。「ハイ5本ですね」団子を焼く煙を挟んでの会話。いつもとは違う楽しいやり取りが交わされました。駄菓子袋詰めも早々に完売。袋を選ぶ子供達は真剣に吟味。ほほえましい光景でした。手芸サークル「ひまわり」の手作り小物の販売も多くのお客さんが来られました。



ハロウィンまつり：「仮装コーナーを設置」 満足感と達成感

令和6年10月26日(土)に「第2回多摩湖町ハロウィン祭り」が開催されました。福祉協力員は、令和5年に続き、「仮装コーナー」を設けて、子どもたちに自由に仮装を楽しんでいただけるように「黒い大きなビニール袋(マント用)」と「折り紙のシール(かぼちゃ、コウモリ、お化け)」を用意しました。用意していたマントに各々貼り楽しんでいました。作ったマントをいつまでも身に着けている姿を見て嬉しく思いました。盛況に終わりとても満足し、達成感を得ました。



多摩湖ふれあいカフェ：月1回 飲み物を頂き情報交換などが楽しみ

3年前に多摩湖町福祉協力員会と多摩湖ふれあいセンターとのコラボで活動が発足したカフェ。ふれあいセンターの2階で、毎月1回 第4月曜日 13:30~開いています。飲み物を頂きながら情報交換し、話し相手や仲間作りに貢献出来たらと思います。スタッフ一同、大勢の方がお越し下さることをお待ちしております。

コーヒー・紅茶・緑茶・美味しいお菓子付き 各々100円です。





多摩湖町を歩いてみるシリーズ②



村山上貯水池・村山下貯水（通称多摩湖）

— 多摩湖竣工後の景観 その6 —

多摩湖は都心から僅かな所にあり、私たちの心を色々な面から和ませてくれる。四季の顔を持ち湖の持つ魅力は人々の心を動かしてくれる。若者たちは湖のほとりで人生を語りあい、恋を育くませ、大人たちは疲れた心や体をいやすのである。

I 文学に表された多摩湖の句碑

- ・ 浮寝して 湖のころを 鴨はしる (儘田 止水) (本名 儘田 吉之助)
 ≪明治40年4月10日生まれ 昭和28年4月貯水池管理事務所々長 昭和35年11月退職 事務所長として「狭山貯水池愛護会」の発足の道を開く 雑誌「狭山」の発行に尽力する≫
- ・ 鴨は翔てり 月の面に とどかざる (山口 青邨) (本名 山口 吉郎)
 ≪明治25年5月10日生まれ 昭和期の俳人 俳句は高浜 虚子に師事 「ホトトギス」同人
- ・ 郭公や 狭山が丘も 深からず (斎藤 俳小星) (本名 斎藤 徳蔵)
 ≪明治16年2月20日生まれ 大正9年「ホトトギス」同人 昭和30年「若葉」同人 農民俳句作家≫

II 狭山貯水池愛護会（昭和22年（1947）創立）

世の中がまだ混乱を極めていた戦後間もないころは水質保全に役立つ貯水池周囲の山林は荒らされ見る影もないありさまであった。かねてから貯水池が周辺農村と遊離した状況では、万事スムーズに運ばないことを所長 儘田 吉之助さんは土地の人々との交流をはかりたいと村山の村会議員に相談、貯水池の愛護を目的とする会を作ることを決めた。

愛護会の支える事業は山林の落ち葉はき（くずはき）であった。くずはきの代金は1反（約990㎡）につき130円で、昭和25年（1950）2月の払い下げ落葉代金は687,000円に達した。狭山貯水池愛護会の事業を円滑に進めるのに役だったのが機関紙 {狭山} であった。

III 熱気にわいた狭山湖駅伝

狭山貯水池愛護会の積極的な支援もあって地元スポーツ愛好家の夢であった第一回狭山湖駅伝が行われたのはマラソン王 金栗 四三さんを迎えて昭和26年3月21日であった。

狭山貯水池愛護会と狭山陸上競技クラブ（大和・村山・東村山・瑞穂を中心としたスポーツ愛好家者で構成）の主催、隣接市町村の共催で行われた。



第6回狭山湖駅伝大会
自転車のサイドコーチがついた

第一回から東京・埼玉・神奈川・群馬の4チームが参加、一般の部、大学の部、高校の部、に分かれて熱戦を展開した。この大会のコースは村山下貯水池 1 週 8.3km を 1 区間として 6 区間全長 49 km を走るものであった。環境条件の素晴らしさから昭和56年（1981）第三十一回まで行われた。村山貯水池中堰堤の交通量が増加し終了を余儀なくされた。平成3年（1991）より、多摩湖駅伝として春分の日に復活、開催されている。

（大熊 鎮成）

多摩湖町福祉協力委員会の年間活動

多摩湖町福祉協力委員会は住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現に取り組んでいます。その中で多摩湖町の福祉活動の一環として下記の行事の協賛とコラボを行っています。地域の方々とのふれあいを大切に、元気であることの喜びを分かち合っています。



4月 桜まつり

焼き団子などの販売

9月 長寿記念品の手配り

80歳のお祝い・プレゼント

10月 ふれあいセンターまつり

フランクフルトなどの販売

10月 ハロウィンまつり

子どもたちの仮装をお手伝い

11月 ふれあい護美プロジェクト

ゴミ拾いで地域交流

12月 餅つき大会

お餅・豚汁の販売

1月 廻田小学校（2年）まち探検

お店などインタビュー

3月 お楽しみ会

長寿のお祝い・交流

毎月 多摩湖ふれあいカフェ

新たな出会い・楽しいおしゃべり

毎月 手芸サロン ひまわり

布を使って小物を作る

多摩湖町福祉協力員

一丁目	二丁目	三丁目	四丁目	西武園住宅
榊崎 美智子	◎木崎 朗子	増子 正子	小林 園子	○寺島 晶子
田口 なみ子	清水 好江	泉 マヤ	○浅見 桂子	○水谷 文
田中 嘉津子	大野 清吉	松井 佳子	大熊 鎮成	武藤 弘子
落合 キミ	斎藤 龍星	石橋 三枝子	横田 せつ子	福田 敦子
寺山 富子	庄司由規子	石橋 淑子	前山 留美子	太田 隆貴
○浅見 美智子	土井 英子	○清水 敦子	田口 美知子	
小沢 道子	○神津 道子	小野寺 光子		都営住宅
深野 真弓				渡邊 幹子
○石橋 歌子				

◎地区長 ○民生児童委員 その他7人の方々が手配り、配付物に協力して載っております
(大熊鎮成)

あとかぎ

阪神・淡路大震災からその後も相次いだ大規模災害で、災害関連死者数が多数に上がったこと、命をつなぎとめたのは人の優しさであり、復興を果たして来たのは連帯の力であるとの報道がありました。近年多摩湖町は若い人たちが次々に入居し人口が増えていますが、昼間は働きに出ている方が多いため、人と人との繋がりが希薄化しています。福祉協力委員会では、他団体と協力し、イベントを実施して町内の多くの人たちが参加し、顔見知りになってもらい交流を深めていって欲しいと願っています。一方福祉の理念がそれで伝わるかとの考え方もあるようです。多様な価値観の中で、人との日常的なつながりを強めていくのは簡単ではありませんが挨拶からおしゃべり、ときにはお節介をし合ってお互いの理解を深め、支え合いのできる安心な町、みんなが笑顔で暮らせる町にしていきたいものです。

(庄司 由規子)